

乗って残そう 公共交通

みんなで守って、
未来へつなぐ!

通勤・通学や、買い物、通院などに利用されており、私たちの生活に欠かすことのできない電車やバス。しかし、四日市市でも公共交通の利用者が減少し続けており、廃止となったバス路線や、経営内容が悪化している鉄道支線も存在しています。大切な公共交通を守り、次代に引き継いでいくために、私たちが今できることは何かを考え、実行していきましょう。



バスでの通学



近鉄内部・八王子線



NPOバス
「生活バスよっかいち」



三岐鉄道三岐線

電車やバスを使う人が減っています

鉄道では、近鉄名古屋線とJR関西本線、伊勢鉄道が広域的な移動を支え、内陸部には近鉄湯の山線、近鉄内部・八王子線、三岐鉄道三岐線が伸びています。また、バス路線は近鉄・JR四日市駅を起点に、郊外の住宅団地までサービスが提供されています。

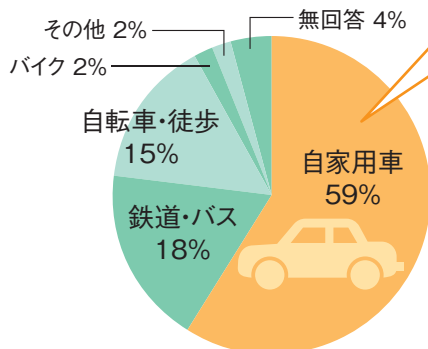
しかし、この10年で、市内の鉄道利用者は約5%、バス利用者は約14%減少しており、朝の通勤・通学時間帯に比べて、昼間の利用が極端に少ない状況です。このようなことから、市内の一部ではバス路線が廃止されているなど、四日市市の交通環境にも厳しさが増えています。

自家用車の利用が多い四日市市

2010(平成22)年度に実施された全国都市交通特性調査では、日ごろ利用する交通手段を、四日市市では自家用車と回答した人が64%(全国平均49%)と最も多く、鉄道やバスと回答した人は、10%(全国平均16%)と少ない状況です。

また、同年、市が実施した調査でも、「便利」という理由から自家用車の利用が鉄道・バスの約3倍にもなっています。

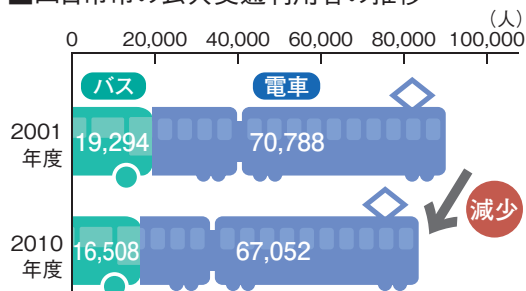
■利用する移動手段(日常の交通実態と公共交通に関するアンケート調査、2010年 四日市市)



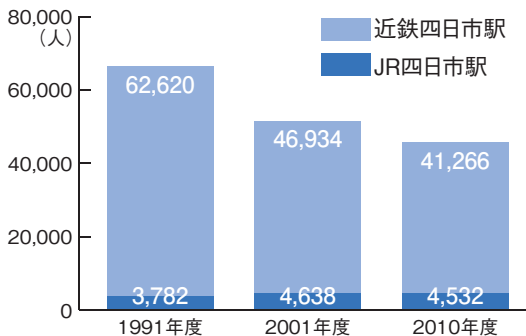
■四日市市の公共交通網図



■四日市市の公共交通利用者の推移



■近鉄・JR四日市駅の1日当たり乗降客数の推移



自家用車・バイクを利用する理由は?(複数回答)

(主な項目)

- 目的地に直接行ける(74.8%)
- 他の方法より移動時間が短い(74.0%)
- 時間の制約を受けない(63.6%)
- 目的地以外の所にも立ち寄れる(63.2%)
- バス停や駅が目的地や自宅の近くにない(30.4%)

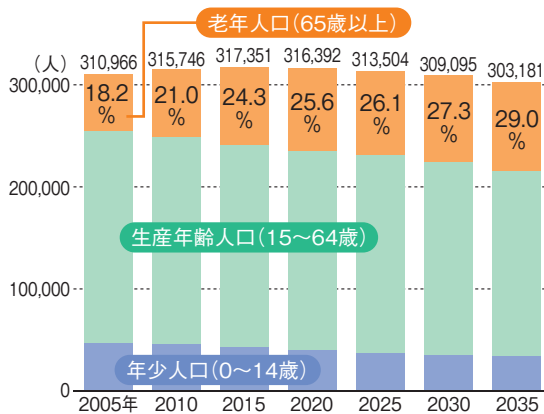
自家用車を利用する理由は、「公共交通を利用できない」からではなく、「便利」だからという人が四日市では多いことが分かります

ますます高まる公共交通の重要性

人口減少や高齢社会の進展で、

四日市市の人口は、2015(平成27)年をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には、65歳以上の高齢者が人口の29.0%を占めると予測されています。また、高度成長期に造成された住宅団地では、団塊世代の退職などで、通勤での利用者が減り、より一層、公共交通の利用者が減少することが懸念されています。

■四日市市将来人口推計
(四日市市総合計画策定にかかる
人口・経済指標推計報告書より)



もし公共交通がなくなったら・・・



高まる電車・バスの重要性 公共交通の維持に向けた行動を!

四日市市では、人や物の輸送を支える公共交通が整えられてきました。通勤・通学目的の電車・バス利用に加え、子どもたちや車を運転できない高齢者、障害のある人など交通弱者と言われる人たちにとっても、公共交通は日々の生活に不可欠であり、人口減少・高齢社会が進む中、ますます重要な役割を果たしていきます。

しかし、過去30年間で自動車の利用が倍増したのに対し、公共交通の利用は激減しています。この結果、公共交通を維持するための条件は非常に厳しくなり、廃止の危機にある路線も出てきています。

今こそ市民と行政が一体となり、公共交通の維持に向けた主体的・積極的な行動が必要になっています。

近鉄内部・八王子線がピンチです！

1912(大正元)年に開業した近鉄内部・八王子線は、今年10月に100周年を迎えました。沿線には、県立高校や私立中・高校などもあり、通勤での利用者などを含め、1日延べ約1万人(往復換算で約5,000人)が利用しています。

この内部・八王子線は、日本一狭い幅(762mm)の線路であり、日本に同じ幅を持つ線路は、現在では、三岐鉄道北勢線と黒部峡谷鉄道(富山県)の3路線のみという貴

鉄道事業者の意向で 路線が廃止できるようになりました

2000(平成12)年に改正された鉄道事業法により、鉄道事業者が路線を廃止する場合の手續きとして、国の許可制から、原則1年前の事前届出制に変更されました。これによって、鉄道事業者が国に路線の廃止届を提出すれば、地元の同意がなくても1年後には廃止することが可能になりました。この法改正で、これまでに全国で30以上もの鉄道路線が廃止されています。

(東海地方の例:名古屋鉄道三河線(一部)・揖斐線、
福岡鉄道神岡線 など)

重な路線でもありますが、40年前と比べて利用者が半減し、ここ数年、赤字が続いているなど、経営は大変苦しく、事業者からは事業継続が困難であると言われています。

なくさないでほしい! 内部・八王子線に対する私たちの思い

ボランティア部では、以前から、内部・八王子線への感謝の気持ちで、西日野駅に花を植えていました。今では、内部・八王子線を残したいという強い気持ちから活動が全校に、さらには他校にまで広がっています!

自分たちは卒業するけれど、後輩たちのためにも存続してほしい!



四日市南
高等学校の
生徒の皆さん

泊町に住むおばあちゃんにとっても大切な生活手段です

毎朝、ぎゅうぎゅう詰めになるほど満員。たくさんの人に頼りにされている電車が、もしなくなったらと不安

日本一狭い線路幅の貴重な鉄道。四日市の宝であることをみんなに知ってほしい!



三重県立四日市南高等学校
校長 田中 真司さん

全校生徒962人のうち、68.4%にあたる658人が内部・八王子線を使って通学しています。

時間に正確で、安全に、一度に多くの人を運べる電車は、地域の人たちにとってはもちろんのこと、決められた始業時間に合わせて、一斉に通学する高校生にとっても、なくてはならない存在です。

また、「この電車に乗って通学したいから受験も頑張った」「なくてはならない地域の誇り」などと、生徒たちも内部・八王子線に大変愛着を持っています。

内部・八王子線があるから南高校に通うことができる生徒もいます。交通弱者である高校生を守っている内部・八王子線を、皆さんも利用していただくように切に願っています。

電車とバスを
比べると



内部・八王子線1本(3両編成)
当たりの定員は、約200人



例えばバス1台に50人が乗車すると
同じ人数を運ぶには、バス4台が必要です

●例えば、高校生650人が移動するには…
3両編成の内部・八王子線が3.3本、バスであれば13台必要です

市民と行政の取り組み

公共交通の維持に向けた



電車やバスの乗り継ぎ環境を良くし、より公共交通を利用しやすくするため、市では、鉄道駅においてバスやタクシーなどの乗り入れをしやすくするためのロータリーや駐輪場の設置など、駅前広場の整備に取り組んでいます。



近鉄・三岐富田駅西口ロータリー



近鉄・三岐富田駅西口駐輪場



現在、市内には25のバス路線が存在しています。これらの中には廃止となった路線を地域で運行する「生活バスよっかいち」(1路線)や市が運行を委託する「自主運行バス」(3路線)もありますが、利用者が減少すると、これらの路線も含めて継続が困難となる可能性があります。こうした中、一部の地域では、市民の皆さんや地元関係者が参画してバスの利用促進を図る取り組みが進められています。

NPOバス 「生活バスよっかいち」

羽津地区

利用者の減少により2002年にバス路線が廃止されたことを受け、地元自治会が中心となって「NPO法人生活バス四日市」を設立しました。地元企業などからの協賛金や、沿線住民の応援によりバス路線の維持に取り組まれています。

〈利用者の声〉

- 生活バスに乗って、一日置きに買い物にきています
- バス・電車を乗り継いで病院に行っていたので、生活バスはありがたいです
- 年をとると歩くのが大変。生活バスは、こまめにバス停があるので助かります
- 家にずっといるのではなく、生活バスに乗って出掛けたり、バスでみんなに会えるのも楽しいです
- まさに生活の手段です！生活バスがないと、買い物に行けません！
- バスの中にはぎやかで、一日分の笑いをもらっています



「自主運行バス」 見直しプロジェクト

神前地区

地区全体のまちづくりを考える中で、区内を走るバスの利便性向上と利用促進を目的に路線の見直しが始まりました。神前高角線を対象に地域の皆さんの発意で、商業施設や県立高校への乗り入れなどが進められ、今年3月から新ルートでの運行が始まっています。

神前地区まちづくり推進委員会
自主運行バス神前高角線
見直しプロジェクトリーダー
佐野しのぶさん



公共交通は、「あって当たり前」から「乗って利用者を増やさなければ残らない」時代です。地区の課題を考える中、住民を支えるバス路線廃止の危機を今のうちに何とかしなくては、と見直しの検討を始めました。

今回実現した商業施設のほか、今後は病院への乗り入れの実現や、関係者と協力して利用者や乗り入れ施設の双方にメリットのある仕組みを作り、利用者を安定的に確保する必要を感じています。

乗って未来につながる 公共交通

私たちにできること

一人ひとりの意識と行動の改革を！

今日、あなたは、通勤や通学、お出掛けの際に、何を使って移動しましたか。「車に乗れなくなったら公共交通の利用を考えるけれど、当分はマイカーで」と考えていませんか。

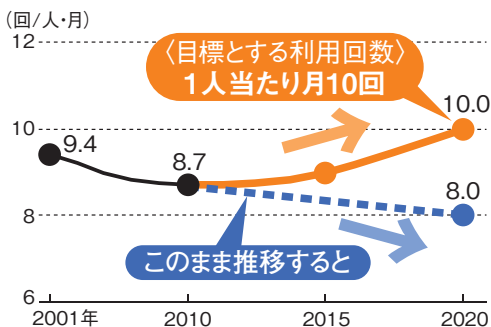
しかし、公共交通がいつまでも存続する保

証はどこにもありません。存続できるかどうかの分岐点に立つ今、私たちにできることはただ一つ。今ある路線を守るため、「時には電車やバスを使ってみよう」という意識に立ち、まず公共交通に乗ってみることなのです。

マイカーと電車・バスを上手に使い分けて、 環境にもやさしい公共交通を維持しましょう

四日市市の公共交通を
未来に引き継ぐために、
おおむね10年前の利用回数である
月に5日(往復で10回)
の利用をお願いします！

■市民1人が1カ月に公共交通を
利用する回数



●1カ月に10回公共交通を
利用するには

いつもマイカーで
通勤しているあなた



週に1回は
電車やバスで通勤すると

月8回
利用

月に1回は電車やバスで
買い物に出かけると

月2回
利用

計
月10回

いつもマイカーで
お出掛けしているあなた



週に1回は電車やバスを使って
日常の買い物や通院、
習い事などに出かけると

月8回
利用

月に1回は電車やバスを使って
市内・外の友人との交流や
趣味の活動、中心市街地への
買い物に出かけると

月2回
利用

計
月10回

取材を終えて

「公共交通は便数が少ないから利用しない」との意見を、取材中何度も伺いました。以前は天候に関わらず、多くの人が公共交通を利用していましたが、快適な生活追求の結果、今ではドア・ツー・ドアの自動車が移動手段の主流となってしまいました。車中心の生活をすぐに見直すのは困難ですが、今、みんなが公共交通を利用し始めないと、ついにはなくなるという最悪の結果になりかねません。私たちが今日から公共交通を使うようにし、周囲にも呼びかけます！（都市計画課 清水、広報広聴課 多賀）